

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

世界経済の底打ちがアジアの生産を下支え (Asia Weekly (12/23～12/28))

～足下の実体経済については底打ちを示唆する動きが続く～

発表日: 2016年12月27日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

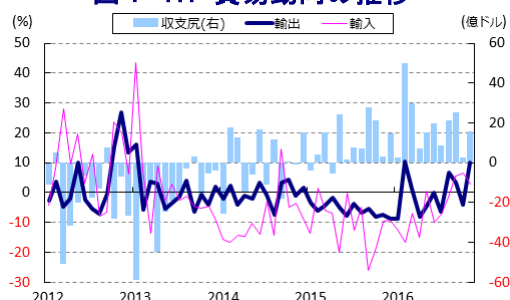
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/23(金)	(シンガポール)11月消費者物価(前年比)	+0.0%	+0.0%	▲0.1%
	11月鉱工業生産(前年比)	+11.9%	+1.6%	+1.3%
	(台湾)11月鉱工業生産(前年比)	+8.83%	+5.00%	+3.43%
12/26(月)	(タイ)11月輸出(前年比)	+10.19%	+2.05%	▲4.22%
	11月輸入(前年比)	+2.97%	▲0.70%	+6.50%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[タイ] ～世界経済の底打ちを反映し、機械製品や農産品など幅広い財で輸出に底入れの動きが広がる～

26日に発表された11月の輸出額は前年同月比+10.19%となり、前月(同▲4.22%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比でも、前月に大きく減少した反動も重なり2ヶ月ぶりに拡大に転じており、そのペースも前月の減少幅を大きく上回るなど底入れが進んでいる様子もうかがえる。前月に大幅に減少した金の輸出額が大きく押し上げられたことも影響しているものの、金以外の輸出額も拡大基調を強めており、米国をはじめとする先進国を中心に世界経済の底打ちが意識されるなかで機械製品や農産品など幅広い財の輸出に押し上げ圧力が掛かっている。一方の輸入額は前年同月比+2.97%となり、前月(同+6.50%)から伸びが鈍化した。しかしながら、前月比は2ヶ月ぶりに拡大に転じており、国内需要の弱さを反映して消費財などの輸入額は頭打ちしているものの、原油をはじめとする国際商品市況の底打ちを反映して原油関連の輸入額が押し上げられたことが影響している。結果、貿易収支は+15.43億ドルと前月(+2.48億ドル)から黒字幅が拡大している。

図1 TH 貿易動向の推移



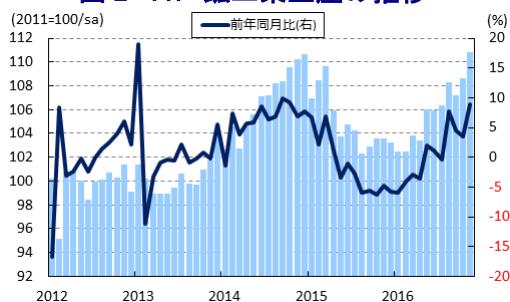
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾] ～外需底入れを反映して製造業を中心に生産拡大続くも、内需の弱さは公益関連の生産の重石に～

23日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+8.83%となり、前月(同+3.43%)から伸びが加速した。前月比も+2.05%と2ヶ月連続で拡大している上、前月(同+1.33%)からそのペースは加速するなど生産の底入れが進んでいる。先進国を中心とする世界経済の底入れを反映して輸出に底打ち感が出ていることから、製造業の生産が拡大基調を強めているほか、長期に亘って低迷基調が続いてきた建設部門の生産にもようやく底打ち感が出るなどの動きがみられる。一方、国際商品市況の底入れにも拘らず鉱業部門の生産は低調な推移をみせているほか、力強さを欠く内需の動きを反映して公益関連の生産も低迷しており、国内景気を巡る

跛行色が強まっている様子もうかがえる。

図2 TW 鉱工業生産の推移



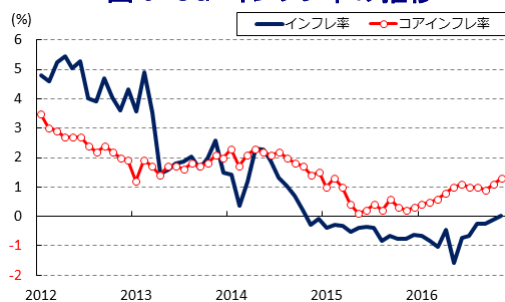
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～世界経済の底打ちに伴う輸出拡大期待を反映し、幅広い分野で生産に底入れの動き～

23日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+0.0%とわずかではあるものの、前月(同▲0.1%)から25ヶ月ぶりにプラスに転じた。前月比も+0.32%と前月(同▲0.29%)から2ヶ月ぶりに上昇に転じており、このところの原油相場底入れの動きなどを反映してエネルギー価格に上昇圧力が掛かっているほか、生鮮品を中心に食料品物価が上昇基調を強めており、生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まっていることが影響している。一方、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+1.25%と前月(同+1.09%)から伸びが加速しているものの、前月比は+0.07%と前月(同+0.09%)から上昇ペースが鈍化しており、必ずしも全般的に物価上昇圧力が高まっている訳ではない。景気の先行き不透明感を反映する形でサービス物価の上昇圧力が高まりにくい状況が続いているほか、消費財物価も全般的に落ち着いた推移をみせている。通貨SGドル安に伴う輸入インフレ懸念はくすぶるものの、先行きについてもインフレ率は比較的低位での推移が続く可能性は高いと見込まれる。

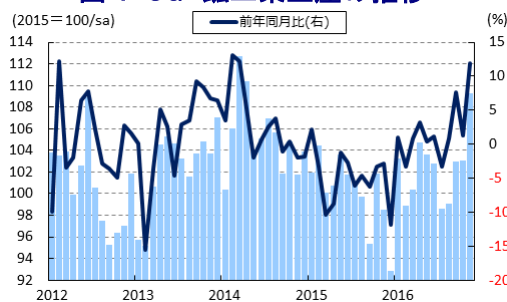
同日発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+11.9%となり、前月(同+1.3%)から大幅に加速して32ヶ月ぶりに二桁%となる高い伸びとなった。前月比も+6.05%と4ヶ月連続で拡大している上、前月(同+0.04%)から大幅に拡大ペースが加速するなど生産の底離れが進んでいる。なお、月ごとの変動幅が大きい上、生産全体の動向に影響を与えやすいバイオ・医薬品関連の生産は前月比+9.66%と前月(同+11.18%)から拡大ペースが鈍化したものの、3ヶ月連続で大幅に拡大しており、生産全体の底離れをけん引している。一方、バイオ・医薬品関連を除いたベースでも前月比+5.07%と前月(同▲1.73%)から2ヶ月ぶりに拡大に転じており、全般的に生産が堅調に推移している様子がうかがえる。電気機械をはじめとする機械製品関連のほか、化学関連や食品加工など幅広い分野の生産が拡大している。先進国を中心とする世界経済の底打ち感の高まりが生産の底入れを促していると思込まれるなか、先行きについても世界経済の動きに左右される展開が続くものと予想される。

図3 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上